

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 8	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Age of Drinking Onset and Unintentional Injury Involvement After Drinking 飲酒開始年齢と飲酒後不慮の事故	
執筆者	
Hingson RW. Heeren T. Jamanka A. Howland J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
JAMA. 284(12):1527-33, 2000 Sep 27	
キーワード	
飲酒開始年齢、不慮の事故、国民長期アルコール疫学調査、断面調査	
要 旨	
<p>(目的) 1997年、不慮の事故は(全米の)1-34才の年代での死因のトップであった。全米の不慮の事故での死亡のおよそ3分の1はアルコール関連と推計される。早期の飲酒開始はアルコール依存と関連があることがみられたが、早期飲酒開始が飲酒後の不慮の事故の危険性を増加させるかどうか知られていない。そこで、早期飲酒開始者がアルコールの影響によって不慮の事故を経験したことがあったかどうかを調査した。</p> <p>(方法) 断面調査である、全米国民長期アルコール疫学調査によって、全米国民を代表する集団で1992年に行った。対象は無作為抽出された成人42,862人であった(回答率90%、平均年齢44才)。飲酒開始年齢は14才未満、14-20才、21才以上のカテゴリーに分類し、アルコールの影響によって不慮の事故に巻き込まれた経験の有無を指標とした。</p> <p>(結果) 21才以降で飲酒開始した回答者に比べ、14才未満で飲酒開始した者と14-20才で飲酒開始した者では、アルコール依存歴や最も多量に飲酒していた期間の多量飲酒者の頻度やアルコール依存症の家族歴、早期飲酒開始に関連する他の特性を調整した後ですら、アルコールの影響によって事故をした経験が有意に多かった。これらの変数を調整した後、アルコールの影響の下で事故をした経験を持つオッズ比は次のようなものであった。14才未満では2.96(95%信頼区間2.26-3.88); 15才では3.14(95%信頼区間2.48-3.67); 16才では2.38(95%信頼区間1.90-2.98); 17才では2.12(95%信頼区間1.66-2.71); 18才では1.33(95%信頼区間1.08-1.64); 19才では1.42(95%信頼区間1.07-1.89); 20才では1.39(95%信頼区間1.01-1.91)であった。</p> <p>(結論) 21才よりも早く飲酒を開始すると、アルコールに関連する事故を起こしやすいことが明らかになった。</p>	